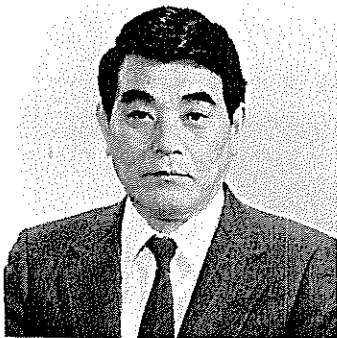




経済学部長就任あいさつ

松永嘉夫



この4月から2年間の任期で経済学部長に就任しました。昭和39年4月に本学に経済学部ができて以来、もう22年間この経済学部におりますが、指折り数えてみますと、学部長としては初代の故・一谷藤一郎先生から私で「12」代目になります。

「12」というと、「12分・じゅうにふん」というように「もう十分過ぎるほど」過去の歴代学部長がおやりになったあとで、「12」番目の私は「もう、たくさん、うんざり」と見られがちな損なめぐり合わせですが、「12」は他方、「えと」の十二支や暦の12月のように、長いめぐり合わせの最後のとどめの意味もあるようです。中曽根総理大臣の戦後政治の総決算ではないですが、経済学部の基礎固めの総決算をするのが私の学部長としての役目かもしれません。

考えてみますと、われわれの学部も、この「ひと」めぐりのあいだに、大講座制への移行とか新時代への適応のための斬新さがいろいろ取り入れられてきました。だが私自身が長いこと同じ職場にいるせいか、何か学部にもマンネリ感が出てきているような気がしてなりません。この何年か、講座数も基本的には

増えていません。校舎もだんだん古くなって、暖房も思うように効かなくなっています。ポーと「12」代学部長を過ごしたら、それこそ「12」番目の「うんざり」学部長のレッテルが付きかねません。設置当初以来の構想でまだ実現されていないものがまだ二、三あります。旧講座数でいっての16講座制の完成とか、2学科制の実現などです。せめて学部基礎固めの総決算役として、その一つぐらいはキリをつけて、新世代の学部に取り渡していかなければと思っています。

また、この1、2年、学部の同僚と語らって、学部入試の改革とか、経済学部を含めた名市大全体の世間における存在感を高めるために、新学部の増設とか、キャンパス統合問題とかに取り組んでいます。が、「12」代目の次の新世代の飛躍のために、そのための条件整備も「12」代学部長の仕事だろうと心得ています。大学全体で年間わずか380名前後しか卒業生を世の中に送り出しえない現在のままの小規模大学では、いかに優秀な人材を送り出しても、世の中での名市大の存在感が十分に出てきません。3キャンパスに分割されたままで、しかも、そこに建っているのが雰囲気的に高校と変わらないような建物ばかりでは、若者に夢と希望を十分に与えることもできません。瑞山会の皆さん向けのこの原稿を書いて、つくづく思うのですが、このままでは、同窓生という援軍も少なく社会で健

↘闘しておられる皆さんに申し訳けないような気がしてなりません。

卒業生先輩の皆さんの健闘のお陰で、最近では新卒者の就職先内容も随分よくなり、ほとんど超一流企業ばかりになってきましたが、大学の方としても、皆さん方の健闘に応えなければならぬ時期にきていると思います。さいわい、昨年度からわれわれ経済学部有志教員の意向が通じて、大学全体に新学部増設問題やキャンパス統合・移転問題を討議する「将来構想検討委員会」ができています。そして、とくに、新学部増設問題に関しては、3つの分科会ができて、全学的にもかなり具体

的な検討が進められています。経済学部「12」代目学部長時代に、是非ともこれらの構想に目鼻ぐらいはつきたいものと思っております。経済学部と隣接するような新しい質のいい文系学部ができて、お互いに相手を意識し合って競争し合えば、経済学部の活性化のために測り知れない効果があるかと思えます。学生数が増え、クラブ活動が盛り上がれば、これもまた非常にいいことです。是非、瑞山会の皆さんにも、このような次世代への動きを認識いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

昭和60年度 卒業式・謝恩会

卒業おめでとう

巣立つ名市大生 198名

去る3月25日、経済学部第19期生(198名)の卒業式が行われました。スーツやハカマ姿の卒業生は晴れやかな中にも少し緊張気味の様子でした。

式終了後、医学部講堂前では卒業生同士でスナップを撮りあったり、後輩から花束を受けとったり、あちこちでお祝いの声が交わっていました。

引き続き午後は山の畑キャンパス学館2階ホールで謝恩会が開かれ、卒業生と学部諸先生方200名余りが参加しました。村田学部長の祝辞後、松永教授の音頭で乾杯。各々ゼミ、



学友、また先生方と名市大での4年間の大学生活の思い出や今後社会へ出てからの抱負などで話はずみ、アッという間に2時間が過ぎました。

卒業後、社会の大海原へ船出する進路はそれぞれ違いますが、名市大で学んだことを生かして行ってほしいと思います。

昭和61年度

入学式

経済学部 189名入学

4月8日(火)午前10時より、川澄キャンパスの医学部講堂で入学式が開催されました。

今年度の経済学部入学者数は、男性154名、女性34名、計188名、他に外国人留学生1名。

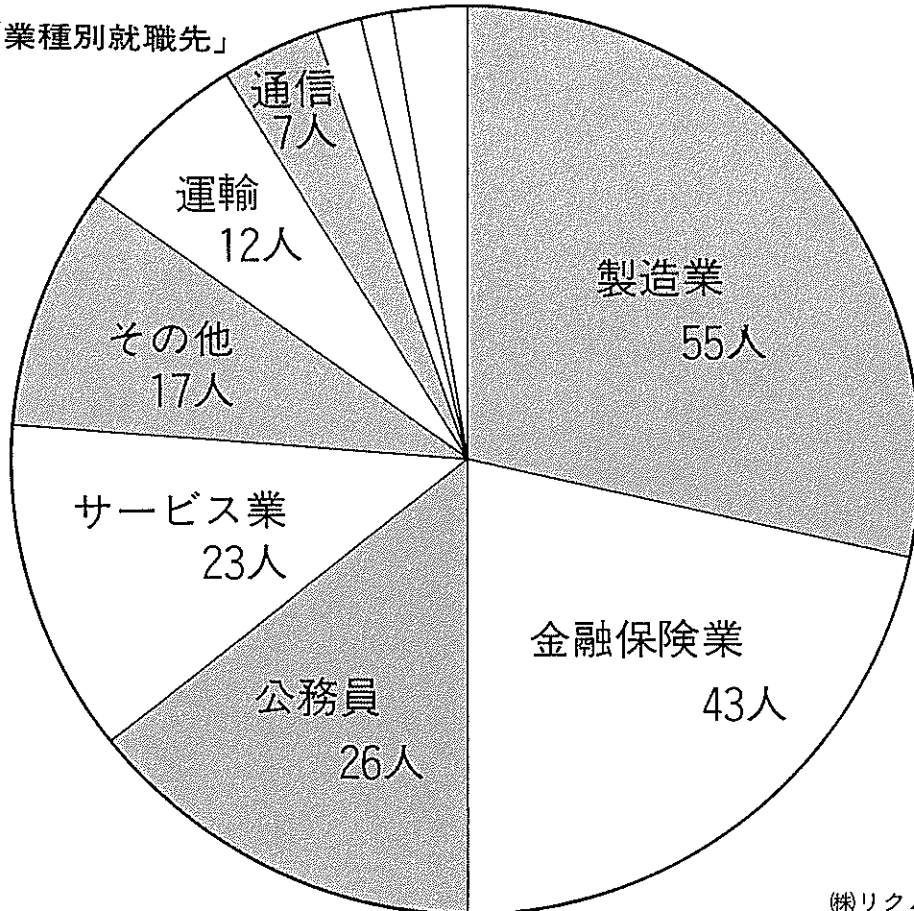
式は、学生歌の合唱で幕があき、柴田学長の告示、入学生の宣誓などが行われました。



61年3月卒 市大生 就職状況について

メーカー以外にも、全産業にわたってひっぱりだこという状況である。又文系についても金融革命に対応できる学生という採用基準のもと、銀行・証券・保険といった業界での採用戦線も、し烈をきわめた。

「業種別就職先」



上場会社就職率38.3% (S59年 35.4%)

名市大生の傾向

市大生の特徴として金融、公務員の比率は依然として高いことがわかる、製造業がトップに位置しているが、地元にも本社をもつ企業が大部分であり、将来のことを考えると、日本を代表する企業へあえてチャレンジして、これからの世代を担ってほしいという気がする。また地元就職率が74%と高く市大生の保守性・堅実性がここでも伺われる。

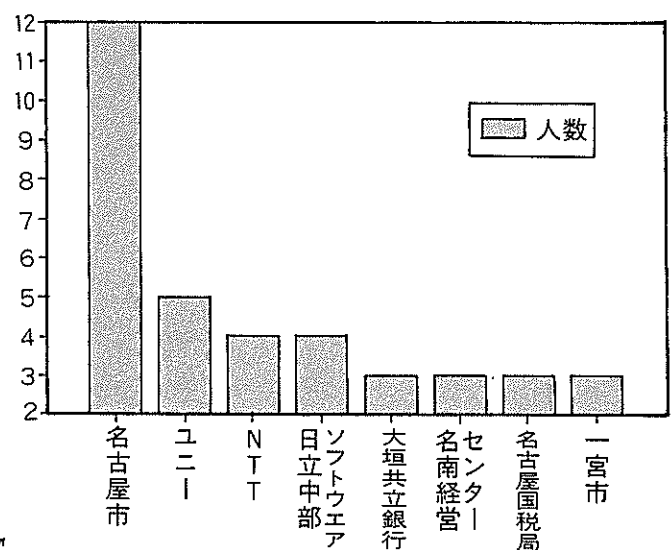
(株)リクルート名古屋支社 田中喜夫 (第7期生)

全体傾向

まず大卒男子の上場企業への就職状況推移を見てわかる様に、昭和48年のオイルショック後、下降気味に推移した上場企業への就職率が34.7%と最高値を復活したのです。つまり大学卒業者のうち3人に1人が上場企業に就職していることになるのです。

要因として景気環境が良く採用意欲が上昇したこと。又一時、不況業種として採用中止企業が完全に採用復活したことが上げられる。別の要因として、社会・経済環境の大幅な変化に伴って、優秀な人材への渴望感が高まったことが上げられる。一例をあげると、エレクトロニクス関連の学生はエレクトロニクス

「就職先上位5社」



ゼミナール紹介

◆牛嶋ゼミ



(61.3 追い出しコンパ)

現在牛嶋ゼミは、3年生11名、4年生10名という構成で活動しております。(うち女子は4名、3名) 普段のゼミは、3年がマクロ経済の外書での学習、4年が各自の論文をもとに財政学の学習ということで行なっています。いろいろなゼミの中でもハードなゼミとして定評があり、自分の発表の前などは徹夜が続き、皆頭の中を爆発させながら頑張っています。また、昨年は中部ゼミナール大会に“増税なき財政再建は可能か”というテーマで参加、今年もインターゼミナール大会へ参加を予定しており、授業以外の学習にも熱が入っております。

一方、レクリエーションも盛り上っておりゼミハイキング、ゼミ合宿、ソフトボール、スキー、各種コンパと超充実をみせています。特に昨年は、牛嶋先生のお好きな阪神タイガースが優勝したことを理由に、皆一日阪神ファンになりすまし、阪神優勝コンパまでやってしまったぐらいなのですから。

もう決して若いとは言えない牛嶋先生ですが(失礼!) いやどうしてゼミ生以上に若さを見せられ、そんな先生に導かれ私達も牛嶋ゼミの一層の発展に努力しております。

◆岩橋ゼミ

時の流れは速くゼミを開いてから20年近くになる。此の間に社会情勢と共に学生の気質も大きく変化したように思われる。偏見かも知らないが経済学部創立後の暫くの間の学生は気概に富み全てに積極的であった。近年は分極化が進み勉学に打込む意欲に個人差が見受けられる。対応してゼミのやり方を変更する羽目に陥った。全員で講座の看板である統計学の勉強をすることから離れて行って各自がテーマをアラカルト方式で選んで発表するようになった。お陰で経済理論はもちろん政策・経営・会計にも手を伸ばしたが多様な学生のニーズに応えるためには仕方が無い。今年はずばり統計学をやりたいというのが何人か居てほっとしている。OA機器・コンピュータの普及で経済の学生も数値計算や数理に強くなければ社会に貢献できない。ゼミでは経済理論に重点を置くことになるが巾広い視野を具えた学生を育てることを目標にしたい。

(ゼミナール風景)



瑞名会設立 職域支部

会長に **岡本 浩氏** (1期生)



名古屋市役所に勤める経済学部卒業生の親睦を一層深めるため、昨年11月15日、王山会館に於いて「瑞名会」が設立されました。

現在、名古屋市役所には約180名余の卒業生が勤めておりますが、10年以上前に一度親睦会が開かれて以来久しくこうした会は持たれていませんでした。

しかし、最近再び親睦会開催の機運が盛り上がり発足のはこびとなったものです。

設立総会には70名余の会員が集り、会長に1期の岡本浩氏、副会長に5期の黒宮孝二氏、会計に6期の小笠原幸生氏、会計監査に2期の坂野修氏を選出し、さらに各年次の幹事を決めました。

このあと会名が、丸八瑞山会、瑞名会、みずほ会、瑞鯨会、志雲会の中で投票され、瑞名会と決定しました。

瑞名会は、瑞山会の職域支部としての活動も行なわれる予定で今後毎年1回は定期的に親睦会が開催され一層充実されていきます。

瑞山会慶弔基準

会員の皆様の慶弔に際して瑞山会として、下記の通りの基準を定めております。皆様のご連絡をお願い致します。

①会員の結婚

瑞山会名で祝電を打って下さい。

但し祝電の費用は打たれた方にてご負担下さい。

②会員の訃報

会員 生花1対 及び弔電
経済学部現教員及び名誉教授

香典 生花1対 及び弔電

同家族 弔電

☞連絡先

訃報については重複することのないように必ず下記宛ご連絡下さい。

栗野 泰次

〒466 名古屋市名東区

藤里町1201 藤の木団地9-402

☎052-772-2561

近藤 常夫

〒467 名古屋市瑞穂区柳ヶ枝町3-54

☎052-841-0224

中村 正治

〒511-05 三重県員弁郡藤原町西野尻625

☎0594-46-3014

理事会だより

- 1月22日 (川澄「八百玉」)
 - 1、瑞山会運営に関する打合せ
 - 2、慶弔基準案
- 3月27日 (経済学部会議室)
 - 1、昭和61年度定期総会
- 5月15日 (同上)
 - 1、慶弔基準案
 - 2、旅費基準案
 - 3、昭和61年度定期総会
 - 4、昭和61年度役員改選
 - 5、会報原稿謝礼

事業部だより

瑞山会協賛によるゴルフ及びテニスの会が5月25日(日)に次の場所で行われました。

○ゴルフ 諏訪レイクヒルC.C.

○テニス 三井の森テニスクラブ

次回は9月21日(日)にテニス、10月5日(日)にゴルフを企画して居りますので、詳細は事業部宛ご照会下さい。

故 国行ますみさんを悼んで

「死」はまちがいなくやってくるものですが、いつどのような形でむかえるか、これは誰もわからない運命と言えます。28才の若さで亡くなってしまった彼女の人生を考えると、大変無念でなりません。同時によくここまでがんばったと、大きな拍手を送りたい気持ちです。大学3年の冬、彼女は突然腎不全という病に倒れました。大手術の後、1日おきに5時間の透析を受けるという闘病生活を強いられながら、大学に通い、木村先生の支援もあり、りっぱに卒業をし、卒業後は、本格的な塾の経営を仕事としていました。この10年近くの間、大変な苦痛を乗り越えながら、一日一日を実に真剣に生きてきたと言えます。最近の彼女の夢は、「アメリカで腎移植をすること」だったと聞きました。果たせぬ夢でありましたが、彼女の死を無駄にせず、一日も早く日本の医療事情が改善されることを祈り、また私自身も、遅ればせながら、腎バンクに登録しようと思っております。K.O.(13期生)



木村教授と
卒業記念写真の国行さん
(左から二番目)

学部人事異動

○60年7月31日退職

助手(経済政策Ⅱ) 若井治美

○61年3月31日退職

教授(経済理論) 村田安雄、助手(経済政策Ⅰ) 永井繁子、同(経済政策Ⅱ) 稲垣秀夫
同(経済理論) 里麻克彦、同(同) 阿部顕三

○61年4月1日採用

助手(経済政策Ⅱ) 渡邊淳子、同(経済理論) 三宅充展、同(経済政策Ⅰ) 小池あき、

同(同) 野原みどり

○61年4月1日異動

◎経済学部長(教授) 松永嘉夫、◎教授(経済政策Ⅰ) 塩見治人(助教授から)、◎助教授(経済理論) 井上泰夫(講師から)、◎講師(経営会計学) 三戸浩(助手から)

定期総会・記念講演

および懇親会開催のご案内

日時 昭和61年8月31日(日)

午前11時より

会場 国際センタービル 26階「東天紅」
中村区泥江町角

☎(052)571-8101(代)

会費 3,000円

総会 11:00~11:30

記念講演 11:40~12:40

講師 新学部長 松永嘉夫教授

演題 「内外経済情勢と展望」

懇親会 12:40~14:40

皆様お誘い合せのうえ、ぜひご出席下さい。

編集部からのお願い

- 年2回の発行を目指して編集部一同頑張っていますが、新しい戦力を募集中です。土曜休みの午後や夕方を利用しながら半年に3回位の打合せをしております。やってやろうという方がいらっしゃいましたら、瑞山会理事又は共同研究室気付瑞山会までご一報下さい。
- 継続出来る記事をとということで、「ゼミ紹介」「支部だより」「人事異動」の欄を設けました。ただこれに限らず、どんな内容でも結構です。投稿を待っております。この会報を会員相互の連絡に役立てていただければ幸いです。記事の送り先は共同研究室内瑞山会です。

〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1